

ハイパーメディアを利用した中国語CAI教材の開発

5F-8

趙玲 根尾秀一 神谷一隆 廖伊庄 伊與田 光宏

千葉工業大学

1. はじめに

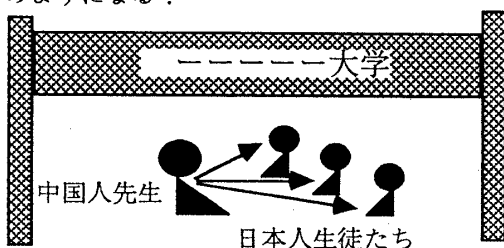
近年、中国の文化、文明および歴史の関心を持つ日本人が多くなった。そのため中国語を勉強したい人も増えている。教育発展に伴い、教科書だけ使用することではなく、コンピュータを利用して語学教育を行う可能性と必要性が高まっている。ハイパーメディア、あるいはマルチメディアという用語が、教育の分野で注目されるようになってきた。この環境下多くの中国語学習ソフトを開発することが最も重要であると思われる。

そこで本研究はレベルを重視し、〈聞く〉、〈話す〉を育成するため、中国語初級である、高校生、大学生および個人学習者を日本人と想定し、基本的に日本語を全く使わず中国語のみで構成される教材を開発する。同一内容で日本語も含めた補助機能も埋め込んでおく。学習者が自身のレベルを考慮した上で学習を行う中国語学習教材を開発した。

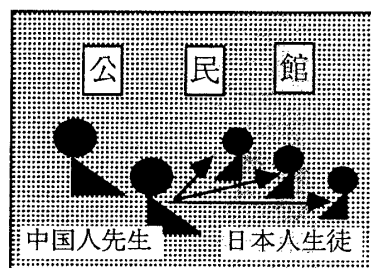
2. 中国語学習の現状と問題点

中国語学習の基本となる日常のコミュニケーション場面や教室授業では、目で文字や画像を見る、耳で音声を聞くなど五感を動員し、かつ、相手との双方向的な交流が行われている。

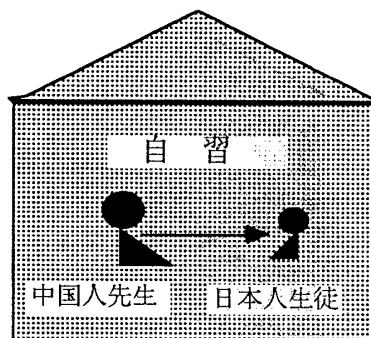
現在、日本では中国語の学習環境は主に以下のようなになる：



A環境：大学で



B環境：公民館で



C環境：自宅で

Aの学習手段は教科書及びカセットテープを使用する。多人数の生徒に対して教師の不足など授業の進度はあまり進まない状況である。学校で中国語学習のためCALLシステムを利用することも少ないと見られる。Bの学習手段は市販教科書を使用し、教室に約20人～30人の生徒がいる。生徒のレベルを分けずに、一人の中国語教師が多数の生徒に教える。中国語教師も週によって変わる、生徒への教え方にもそれぞれがある。Cの学習手段は市販の教科書やビデオなどで自習する。中国人の家庭教師を頼むこともある。

中国語学習において極めて重要なのは音声の情報だ。音声情報は得られるが、教師なしの自習状況では音声と文字や画像を関連させるのが難しい、ビデオ教材は、音声と画像の関連づけについては強力なものであるが、自習という状況では、情報の一方向性から脱するのが難しい。したがって、文字、音声、動画像3つを扱える教材は必要である。

A Development of Teaching Material in hypermedia for Chinese CAI

Lei Chou, Shuichi Neo, Kazutaka Kamiya,

Yishou Ryou, Mitsuhiro Iyoda Chiba Institute of Technology, Narashino, 275

3. 本システムの設計方針

本教材の設計方針を以下のように考慮した。

(1) 基本の構想：

教材内容として中国で外国人への教え方の形式を構想した。教材の構成は学習者のレベルに応じるため中国語のみと日本語訳付きの二つ部分なる。

(2) 母国語を排除する教授法について：

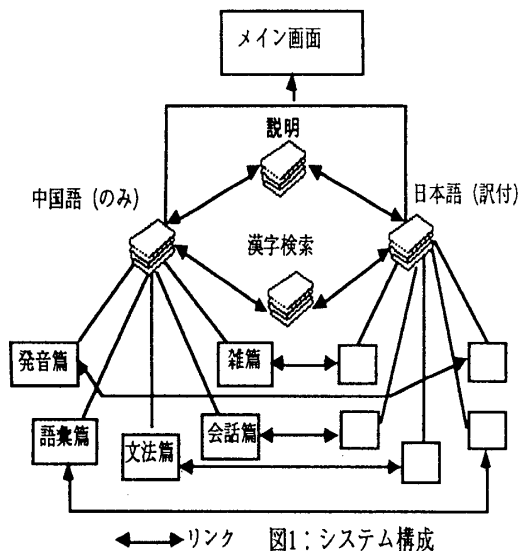
母国語を排除する教授法の主な特徴は「聞く」と「話す」の育成を中心として、実物や動作等により外国語の表現と意味との結びつきを図ることである。また、日常生活に関連した教材なので興味づけによい。本教材はナチュラル・メソッドとオーラル・メソッドを採用した。

(3) 表現メディアとしてのハイパーメディア

4. 本システムの構成と機能

4.1 システムの構成について

本システムは下図に示すように、説明、中国語のみ、日本語（訳付き）、漢字検索から構成されている。外国語教授・学習のメディアとしてはテキスト、絵、録音テープ、ビデオなどを使用する。必要によってこれらのメディアのうちいくつかを一緒に使う。ハイパーメディア製作用ツールであるハイパーカードを使用し、ハイパーテキストのリンクにより、以下のような情報を取り出すことが可能になっている。



4.2 各部の構成と機能

各部の学習は日本語と中国語両方に用意したので、学習者は自身のレベルを考えて、選択できる。

(1) 説明部

説明部は本システムのねらい、全体構成図、ボタンの説明と各カードの内容の説明およびこのカードの現在の位置が表示される。

(2) 中国語のみと日本語（訳付き）部

各部の学習は日本語と中国語両方を用意した、学習者は自身のレベルを考えて、選択できる。例えば：発音篇を例にとりして次のようになる。

発音篇は主に子音、母音、声調、音節と音変学習を用意した。声調学習では口型学習から口頭練習までを行う。音節の構造学習ができる。

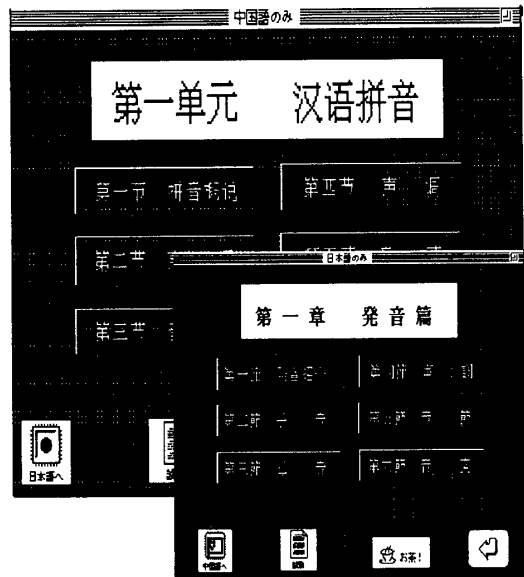


図2：発音の画面例

(3) 漢字検索部

漢字の検索は画数から検索を行う。また、漢字に関連する単語は約1000語を用意した。

5. おわりに

本システムにおいては、中国語学習の基礎知識から応用までを設計した。今まで、多くの中国語学習用ソフトが開発され、システム設計も多様化している。本研究で提案したこの方法は母国語を排除することを目的として開発した。

今後の課題としては、学習効果評価法についての研究を目指す。

参考文献：

- (1) 野澤和典、島谷 浩、山本雅代：“コンピュータ利用の外国語教育”、英潮社
- (2) 趙玲、他”中国語初級に対応した学習教材の開発”、1995年情報処理学会第51回全国大会。